

甲府カトリック教会の歴史

- 1878年(明治11) ルコント神父山梨県で宣教を始める。
- 1884年(明治17) クレマン神父山城教会を建てる。
- 1886年(明治19) 太田町に伝道所を開く。(甲府教会の前身)
- 1898年(明治31) レゼー神父三吉町に伝道所を移す。(現在の相生町3丁目郵便局の場所)
- 1925年(大正14) ブーブ神父の時代に現在の聖堂が建つ。11月29日にレイ大司教による献堂式。設計はドルワー・ル・レゼー神父。当初は、畳敷。入口は東側で、南の壁には3つのアーチ型窓があった。
- 1928年(昭和3) ブーブ神父聖堂内に6体の聖像を置く。5月6日の堅信式の際、シャンボン大司教が祝福。
- 1949年(昭和24) ルチオニ神父聖堂増築。現在の玄関と二階部分。このとき床を板張りにし、ベンチを入れた。
- 1969年(昭和44) チェリザ神父祭壇のステンドグラスを設置。
- 2025年(令和7) 献堂100周年。



† 神がわたしたちに生きる力を与えてくださり、共にいて、わたしたちの内で働いてくださることを感謝するためです。



無原罪の聖母像

† イエスさまは、弟子たちとの最後の食事の席で、「このパンを分け合って食べるとき、神が共にいてくださること、わたしたちはゆるされ救われているのだということを思い出さない」と言われました。ミサでいただくパンはそのことのしるしです。日常のささいなことの内にも、神の働きのあるしを見つける目を持つことが大切です。

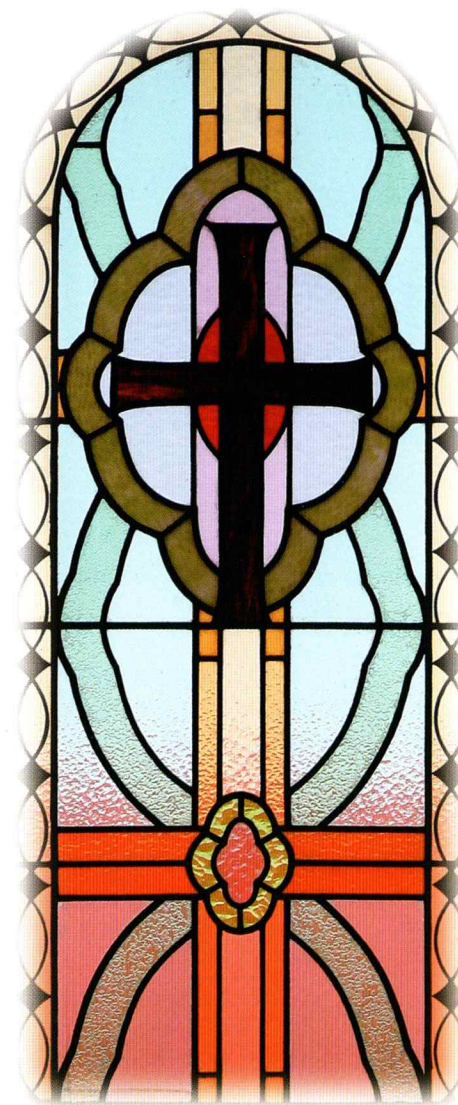
† 共にいてくださるしるしとしてのパンを「キリストのからだ(御聖体)」と表現します。ミサのパンは、祭壇正面の聖櫃(せいひつ)に残され、教会に足を運ぶことのできないご病人のところなどに運ばれます。



甲府カトリック教会

〒400-0032 山梨県甲府市中央2-7-10
TEL.055-237-2531 FAX.055-237-2507
<https://www.catholic-kofu.com/>

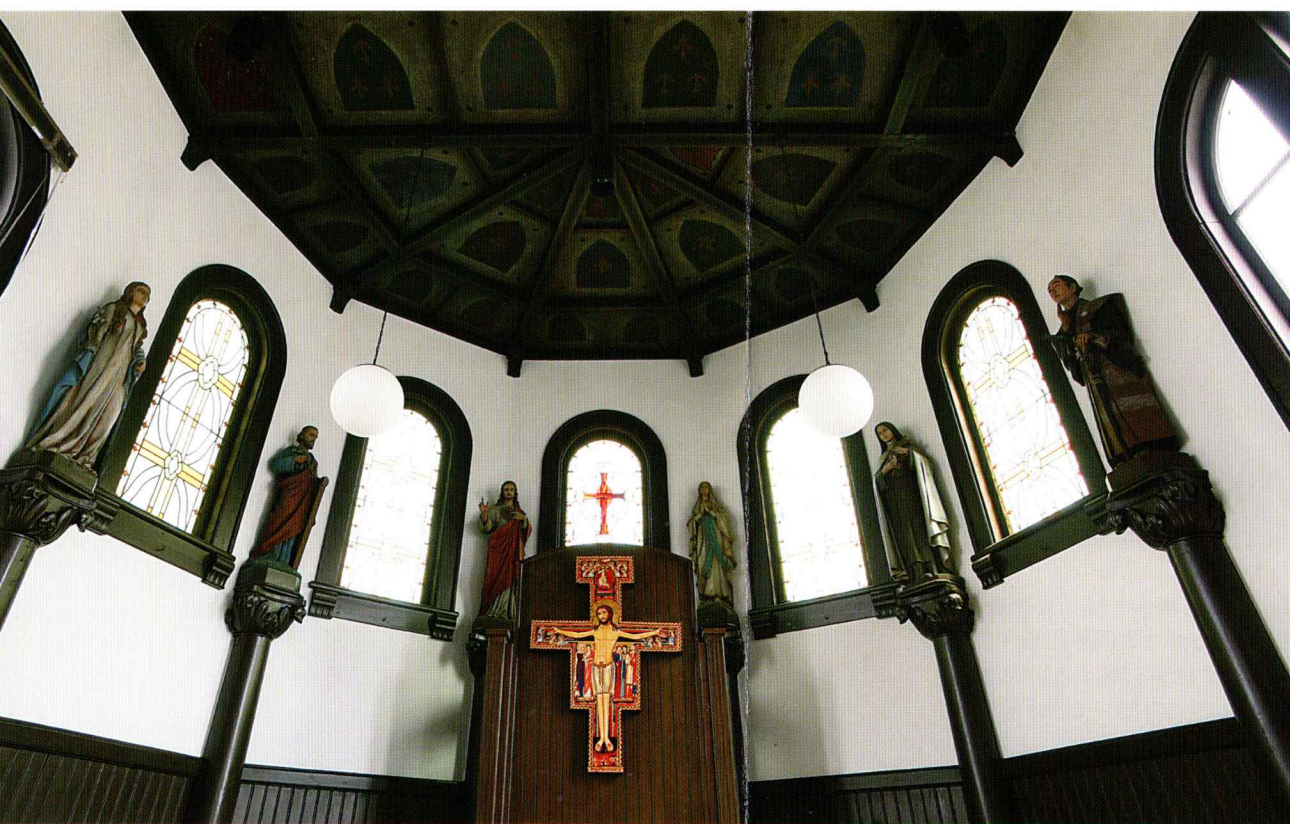
甲府カトリック教会



いつでも自由にお入りください・静かな祈りのひとときをどうぞ



Kofu Catholic church



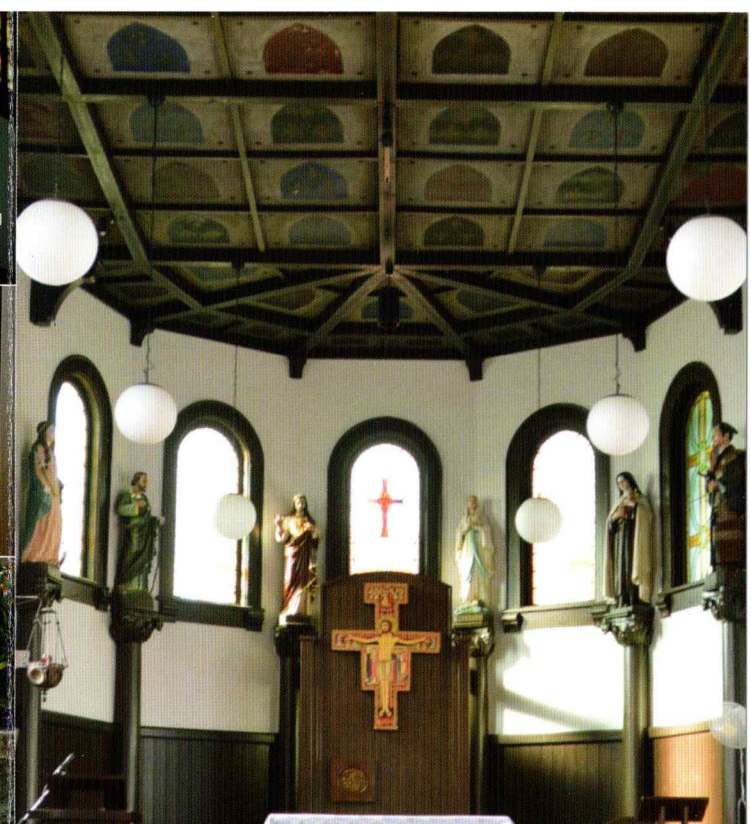
このランプは「聖櫃に御聖体が置かれていますよ」ということを示しています。



「聖櫃」



聖堂北側にあるルルドの泉を模したマリア像。



6体の聖像について

聖フィロメナ

フランス・アルスの司祭聖ヴィアンネ（1868年没）がこの知られざる聖女に対する信心を広めました。

聖ヨセフ

マリアの夫ヨセフ。右手に清らかさを表すユリの花を持ち、左手は大工であったことを表す木材を持っています。

み心のイエス

修道女聖マルガリタ（1690年没）にイエス様が現れ、燃えるハートを示して、「私の愛深さに気づきなさい」といわれたというエピソードに基づいて、「み心」の信心が起りました。像の左手はハートを指しています。

無原罪の聖母

マリアがイエスの母となったのは、真直ぐな心で神を受け入れていたからだという教義に基づく像。私たち人間は神の恵みによって生きるのに、それを上手に受け取れないでいます。そのように神との関係がねじれてしまっていることを、「原罪の影響」という言い方で表すのです。

この像はルルドの聖ベルナデッタに聖母が現れたときのイメージに基づいています。

また、この教会は「無原罪の聖母」に捧げられています。

聖テレジア

カルメル会修道女。1897年9月30日24歳の若さで亡くなります。神への単純な信頼の手本として尊敬されています。

「小さき花の聖テレジア」「幼きイエスの聖テレジア」などと呼ばれます。

トマス箒手田

肥前の出身で祖父の代からの熱心な信徒。

1619年11月27日に斬首され殉教。享年40歳。多数のキリシタン殉教者の中から、ブーブ神父がこの人を選んだ理由は、フィロメナのような無名性であったかも知れません。



十字架の道行

聖堂の壁に掛けられた14枚の絵は、キリストの受難（裁判から埋葬まで）を描き、「十字架の道行」と呼ばれています。イエスの十字架の死を通して、「神は私たちを裁くのでなく、ゆるして救われた」というメッセージを黙想するための絵です。6番目の絵（上）は、ヴェロニカという女性が差し出した布に御顔が写されるというエピソードです。